

10/15 月曜

診療報酬改悪で病床減

厚労省調査 患者追い出し進む

病院で看護師配置が

最も手厚い「7対1」

病床（患者7人に看護

師1人）が1年間で1

万65500床も減り、

「患者追い出し」が進

んでいることが14日、

厚生労働省の調査で明

らかになりました。同

日開かれた中央社会保

険医療協議会で報告さ

れました。

14年度の診療報酬改

悪によって入院対象を
「重症」患者に絞り、

入院日数を規制強化し

たことが影響していま

す。

「7対1」病床は、

14年3月に38万床あり

ましたが、同年10月ま

でに1万4200床減

少、15年4月までに2

千300床減少。看護

体制の薄い「10対1」

病床や地域包括ケア病

床（13対1）などに転

換されています。

診療報酬改悪と併せ

て行われた短期滞在手

術基本料の見直しで平

均入院日数は1日減

少。「7対1」病床を

含めた一般病床全体で

も1日減少しており、

「患者追い出し」が進

んでいることが浮き彫

りとなりました。

一方、「7対1」病床

がある理由について7

割超の医療機関が「7

対1相当の看護配置が

必要な入院患者が多い」、5割超が「他病棟

ニーズが想えられなくなる懸念がある」と回答。地域医療を支えている同病床の必要性を示しています。

「7対1」病床について安培政権は、医療費削減のため高齢化の

ピークとされる25年までに半減させる計画です。中医協で厚労省は、入院5日までの手術・検査に算定する「短期滞在手術基本料」を拡充するなど「7対1」病床を含め

た「急性期病床」をさらに削減していく方針を提起。来年度からの診療報酬改定に盛り込み、「患者追い出し」をすすめていく考え方を示しました。